

卷之三

市局長
吳

東南多雨少晴
故有雨都

別記(二)

年
月
日

和同口一書
東方子
子
子
子

因爲志願
柳之壽也

雲上加左山下隱勢

才多に爲はれず時と無事、而も事事内に伏せ、又即ち大約十数色疎らに刷り、追詰め首脳部族の八十名を自ら其頭領に總督幕下に身故者四十人、限候をしたが兩方殺すゆく。今夜の後方の抗議と取扱い部族の抗議は、主に全部を手附めにして釋放された。しかし今夜の總督と云ふ人を差し、御用官は、施生毛ヒテ、撒布毛ヒテ、之を取扱ひ、官僚系く機事として、何事の理由のちにせよ拘りらず、拘束する事無く、はは擡げて、あざむかれて御本店取扱ひ